

木田市長の

# どしんと コミュニケーション



## 日本人はすてたものじゃない

Vol.102

仲の良い友達と一緒にいると気分が良いし、楽しいものです。逆に仲の悪い人がいると何となく気まずく、落ち着きません。国と国の関係も同じことだと思えます。近隣の国々から悪く言われたり、悪宣伝をされたりすると、国民のだれもが気分が悪くイライラすることになります。軍国主義時代の日本は、確かに自分勝手な行動や、してはならない行動があったのでしよう。そのことについては謝らなくてはなりません。しかし現在の日本人はどの国の人と比べてもはるかに寛容な民度を保っている。私は考えています。

ヨーロッパのあるテレビ局が「どつきりテレビ」のような実験をしました。お金の入った財布をわざと落として様子を見たところ、日本では財布を拾った5人すべてがその財布を警察へ届けたそうです。次にそのテレビ局が自分の国で同じ実験をしたところ、5人全員が自分のふところに入れてしまったそうです。その国では「いったい日本人はどういう人種なんだ」ということになって、日本人ファンが増えたそうです。また、大震災が起こると略奪や強盗が頻発する国もあります。日本ではそんなことは起こらず、整然とした行列ができます。このような日本人の行動は何に起因するのか私にはよくわかりません。教育かしつけかもしれません。

また、人種的な特長も確かにあります。今から40年ほど前、私が研修生としてアメリカの農場で働いていた時のことです。農場にある雨水の排水管を小さいものから大きいものに交換する作業をしていました。私が管の断面積を暗算で計算して「これで流れる水の量は何倍になる」と言いました。いっしょに働いていたアメリカ人のワーカーはとてまぶつくりしてしまって、私に対して「おまえは数学者か」と言いました。日本人なら円の面積は $\pi r^2$ で、半径の二乗に比例することはよく知っていることです。逆に、そのアメリカ人のワーカー達は車のエンジンの調子が悪いからと、中古のエンジンを街で買ってきて、載せ替えてしまおうようなことをいとも簡単にやっつけてしまいました。その作業中は、私は全くの手伝いしかできませんでした。機械を扱うことにかけては、とても彼らにはかなわないと思ったことでした。

とりとめの話になりませんが、私たち日本人は自分たちの良いところを大切に守り、まごころで諸外国の人々に接し、認めてもらうこと、そして仲良くなってもらうことが大切なことでしょう。

### 山下憲一の

## 東京奮闘記!

Vol.10

市では、平成24年度から離島振興や首都圏での観光、企業誘致のPRを行うため、東京へ駐在員を派遣しています。

企画財政課企画経営室 ☎ (25)1101

### 夏を迎えて

東京で3度目の夏を迎え、平成27年度の国の予算獲得に向けて、各省庁や国会議員に対して要望活動へ出向く機会が多くなってきました。

1回の要望活動で市の施策に関する10〜20の部署を回りますので、この時期の要望活動は汗だくになります。

しかし、各省庁を回ったからと言って、補助金や交付金が自然とついてくる訳ではありません。省庁のかたと顔見知りになることで、情報提供していただくことはあっても、最終的に補助金、交付金を手にするためには事業の企画、内容が重要となってきます。

で、各部署と連携し効果的な活動を行いたいと思います。また首都圏での観光、特産品のPRのため、夏前から東京都内で開催されている「マルシェ」を視察し、担当者にお話を伺っています。

ヨーロッパでは市民の台所として親しまれていますが、週末には都内各所で定期的に開催されています。新鮮な野菜や果物、個性あふれる雑貨など、生産者のこだわりの品が多く並んでいます。何より生産者と直接会話をしながら買い物ができるのがマルシェの強みだと思います。

私は商売に関しては素人なので、品数が多いほうがお客様に興味を引くと思っていましたが、生産者自慢の一品だけを売るブースが多くあり、トマトで真っ赤に染まるブラスに多くの人が集まっていたのがとても印象的でした。



都内で開催されたマルシェ